

平成23年度 薩摩川内市事務事業評価表

1 事務事業の位置付け(Plan)				内部評価者名 課長・室長・支所長	勝目 吉昭
事務事業名	日中友好スポーツ等交流事業			担当者	上村 英樹
所管部課名	教育部 学校教育課			事業の根拠 (根拠法令)	
事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設管理 <input type="checkbox"/> 内部管理				
総合計画上の 位置づけ	施策の 基本方針	政策 (章)	地域の特色を活かした教育・文 化のまちづくり	主要施策 (節)	交流活動の推進
				施策 (項)	国際交流の推進
予算科目等	会計	一般会計		款	教育費
	項	教育総務費		目	学校保健費
	事項	日中友好スポーツ等交流事業費	細事項	日中友好スポーツ等交流事業費	

事業の概要

中国常熟市及び馬陸鎮と本市の小中学生がスポーツ交流等を通して親睦を深める。

2 事務事業の実施 (Do)

事業の 内容	対象 (誰を, 何を対象とする事業か)	市内小中学生		事業開始年度			平成17年度	
	手段 (市がどのような活動をするか)	本市児童生徒を中国常熟市に派遣し, 常熟市の小中学生とスポーツ及び文化や見学等を通して交流を深める。 なお, 昨年度は受入, 本年度は派遣となっている。		活動指標 (市として何をを行うか?)	指標名		交流回数	
					最終目標値		交流者数	
	意図 (どのような目的で事業を行うか)	中国常熟市・馬陸鎮とスポーツによる交流等を通じ, 相互理解と友情を深め, 親善に寄与するとともに国際感覚を身につけさせる。		成果指標 (活動をした上で, 目標となる成果をどのように設定するか?)	最終目標値		1回/年	
最終年度						本市開催120人 (派遣先 50人)		
コスト・ 指標の 推移	項目	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 (見込み)	平成24年度 (見込み)	平成25年度 (見込み)	
	事業費	国・県支出金		0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源		2,119	3,990	2,876	3,990	2,876
		合計(A)		2,119	3,990	2,876	3,990	2,876
	従事職員数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	人件費(B)	千円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
	従事嘱託員数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	人件費(C)	千円	0	0	0	0	0	
	トータルコスト	千円	3,719	5,590	4,476	5,590	4,476	
活動指標の推移		回/年	1	1	1	1	1	
		人/年	50	120	50	120	50	
	成果指標の推移		人/年	60	120	50	130	60
		%						

事業費の主な支出内容(事業内容がわかるよう, 支出する主なものを記入してください)

交流事業等業務委託料(81.1%), ユニフォーム等消耗品費(8.4%), 記念品等報償費(4.7%), 印刷製本費等(3.9%)

3 事業の視点別評価 (Check)

妥当性	対象・手段の妥当性 <input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地はある <input type="checkbox"/> 妥当でない (上記選択の理由) ・現在、常熟市及び上海市馬陸鎮と交流を行っているが、常熟市との小中学生の友好関係や時期的な重なり等を考えると、常熟市との交流に一本化した方がよい。馬陸鎮とは20年度を最後に交流を行っていない。
	市が関与すべき妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 市で実施すべき <input type="checkbox"/> 民間でも可能 <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき (上記選択の理由) ・市が友好都市盟約を結んでいる常熟市との交流であることから、市が中心となって実施すべきである。
効率性	事業費の削減余地 <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> ある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地はない (上記選択の理由) ・必要最低限の経費で運営しており、航空機の便にあわせて日程も計画していることから、事業費の削減は難しい。
	人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> ある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地はない (上記選択の理由) ・現在も担当者が一人で準備等を行っており、これ以上の削減は無理である。
有効性	成果の達成度 <input type="checkbox"/> かなり高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い (上記選択の理由) ・スポーツや文化を通して両市の小中学生が交流することで、親睦が深まるとともにお互いの国を理解し合うなど、国際感覚の育成に役立っている。
	成果の向上余地 <input type="checkbox"/> かなりある <input checked="" type="checkbox"/> ある程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない (上記選択の理由) ・これまでの文化交流は、主に発表を鑑賞し合うことで交流を図ってきたが、今後は互いの伝統文化や遊び等、実際に体験することにより、常熟市とより深まりのある継続した交流を行うことができる。

4 事業の改革・改善の方向性 (Action)

内部評価 (一次)	今後の改革の方向性 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続 今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
	上記方向の理由 ・友好都市盟約を結んでいる常熟市との交流をこれまで、3年に2回派遣していたサイクルを、隔年ごとに受入・派遣のサイクルにしていくことにより、受け入れる回数がこれまで以上に増え、本市のより多くの児童生徒が中国の文化に触れる機会を設定していくことにより、本事業の目的を達成することができる。
	改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画 ・交流内容、交流方法の見直し……スポーツ交流はこれまでの形態通りで継続し、文化交流においては、体験型の交流となり得る演目や内容に見直していく。 ・交流先とのさらなる連携……3年サイクルから隔年サイクルで交流する。

内部評価 (二次)	評価者名 _____
	内部評価結果 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い
	今後の改革の方向性 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上で継続 今後の方 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止
	上記の改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画(内部評価一次と違う部分) ・ 事業成果の検証 ・ 交流手法の再検討